

■自ら課題を見つけ、協働の学びを推進し、行動する生徒の育成－生命(いのち)－(玉川中学校)

1 【活動の趣旨】

- ・地域での経験を通して、自己肯定感を持てるような取組を進めていく。
- ・明確な目標を持ち、様々な体験活動から取組を進め、学校と地域が連携して子どもたちの意欲や実践力を育む。

2 【特徴的な活動内容】

(1年生) 株式会社いろあわせ代表・北川雄士様から、資料のプレゼンの仕方やまとめ方などを学んだ。

(2年生) 総合的な学習の時間等を利用し、防災(立命館大学・深川良一招聘教授・摂南大学・池内淳子教授・湖南消防署)・地域(パナソニック・桜ヶ丘桜プロジェクト)、琵琶湖(あさがら野子どもと自然舎・池田勝代表)・人権(草津養護学校)・宇宙(立命館大学・佐伯和人教授)における各専門家や生徒から学び、深い学びや交流を行い、自分たちの生き方を考えた。また、全校生徒に向けて発表した。

(3年生) 総合的な学習の時間等を利用し、2年生で学んだことを応用してエコバック、かまどベンチ、ビオトープの作成やパラスポーツの開発などを行い、全校生徒に向けて発表した。



【宇宙分野で電波を受信するためのアンテナ作成の様子】



3 【実施に当たっての工夫】

上記の取り組みで、2年生の宇宙分野は、今年度からの取り組みである。昨年度の学校運営協議会で、立命館大学で宇宙関係の取り組みが進められていると情報があり、中学校からの依頼を快く受けていただき実現した。また、3年生の各取り組みについては、すべて今年度の取り組みであり、生徒から意見を収集して、昨年度の学びを活かせるように実施した。

【本校の中庭にビオトープを作成している様子】

4 【事業の成果】

各学年の取り組みについて、11月に全校で発表会を実施し、お越しいただいた講師、地域の方、保護者の方から次のような感想があった。

- ・「宇宙」とか「衛星」とかなかなか日常では感じにくいところがあるけれど自ら興味をもって学ぶ姿勢が素晴らしい。貴重な経験ができてよかったですね。10年～20年先の皆さんの活躍を期待します。
- ・中庭のビオトープ、見ましたよ。次世代の人にも大事にしてもらえるように大切な場所になればいいなと思いました。卒業後も役立っています。この学びをより積極的に取り組んでください。

各分野で生徒が専門の方から話を聞き、生徒同士で研究し、その成果や残された課題を発表することで、学年を越えたつながりを生徒が実感することができ、1, 2年生は来年度の取り組みやその方法に興味・関心を持つことができた。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

日程のことも含め、地域で学習の成果を発表する場を設けることを検討したい。